

第618回番組審議会報告

2017年5月9日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長（書面） 今井美樹委員
太平信恵委員 津村記久子委員 中野健二郎委員 東野博昭委員
細見良行委員 丸山雅也委員

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 木田取締役 宮田取締役 浜田取締役制作局長
川中チーフプロデューサー 中山ディレクター（総合演出） 大牟田
コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長

■議事の概要

MB S開局65周年記念特別番組

「アートの日 アーっと驚く！カンサ偉ジン博覧会」

2017年3月25日（土）11:58～16:00 放送

について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- *アートに「アホやなあ」という感覚も入れながらやろうという、実に大阪らしい発想で面白いのだが、クオリティーにばらつきがあった。見ている方は受け止め方に困ったのではないか。
- *「アートの日」というタイトルと、“ばかばかしいことを一生懸命やって達成する”というコンテンツの中身、それに出演者の意識との間にギャップがあったように感じた。
- *吉本新喜劇の座員総動員によるギャザリングアートは収集過程で出てきたいろんなエピソードがほのぼのとしていて楽しめたし、出来栄も秀逸だった。座員の率直な感想などもあって素直に見ることができた。
- *長時間の番組なので視聴者の関心を集めるコーナーをいつごろ放送するか、画面にインデックス（見出し）を出して知らせてほしかった。

- *大阪城西の丸庭園での500人のダンスパフォーマンスは見応えがあった。また、集まった人たちが非常にアホらしいことを真面目にやるというのは面白かったのだが、意外とあっさり終わった印象。生放送らしいドキドキ感がもっとあればと思った。
- *たくさんの人が参加したダンスシーンなどはそれ全体で完成された映像だろう。その画面の隅にワイプでスタジオ出演者の顔を出す必要はないのではないか。
- *アートには普通の人には思いつかない発想やセンスが必要。人選に工夫の余地があった。
- *通天閣や商店街でのダンスは場所の選定もよかったし、演出も楽しめた。また映像の完成度も高かった。
- *自分なりに描くアートのイメージとは違っていた。バラエティー的な“博覧会”をとおして何を主張したいのかがわかりにくかった。
- *「史上初」とか「超人」など、場を盛り上げようとしたのか、大げさな表現が気になった。
- *CMと看板に関するコーナー「宣伝今昔ウラ話」は、とり上げた事例も実に関西らしいもので楽しめた。関西には面白い看板がたくさんあるので、看板だけにテーマを絞っても番組ができるのではないかと。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- *「アート」には難しいとか、硬いといった、とっつきにくいイメージがあるが、今回の番組ではそれにとらわれず、ワクワクするような、揺さぶられるようなものまでをアートと定義してみた。そのうえで、雑多な要素を含んでいるアートの魅力を、バラエティー番組的なお笑い部分などを交えながら伝えられたらと考え、通常の番組ではなかなか実現できないことをあえてやってみようと数々のトライをした番組。
- また、大阪の街に着目して、「大阪はこんなに魅力的で、エネルギッシュでアートの部分がたくさん隠れている」というところを描き出したいと考

え、さまざまな企画中継でお祭りムードを牽引するようなイベント感を出してみた。

*番組のメインテーマは、実際は『アーっと驚く！カンサ偉ジン博覧会』だったのだが、タイトルに「アートの日」とうたっていたために、いわゆるアート特番を期待した方の期待と実際の番組内容との間にギャップを生んでしまったかもしれない。

*個々の企画VTRについては、当然好き嫌いはあるだろうが、見やすかった、面白かったというご意見をいただいた。もちろんクオリティをさらに高める必要があるが、それとともに、長時間の生放送として仕上げるためにどのような工夫が必要だったのか、についてもあわせて考えてみたい。

*生放送とはいえ、確かに「世界的な」とか「壮大な」という言葉が安易に使われていた。言葉の問題は今回の特番だけではなく、ほかの番組でもただ単に盛り上げようとする枕詞のようになっている。反省点として今後に生かしていきたい。

以 上